

派遣先所属 福島県商工労働部企業立地課

氏 名 岸 啓輔 (きし けいすけ)

派遣期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日 (昨年度から継続派遣)

## 1 派遣業務の内容、現況

私は昨年度から継続して商工労働部企業立地課に派遣されています。商工労働部には埼玉県から私を含め2人、東京都から2人の計4人の地方自治法による派遣職員がおり、経済面からの復興を目指し、日々の業務に取り組んでいます。その中で、私の所属する企業立地課は、主に製造業等の誘致・補助金及び鉱工業に係る業務を行っております。

私は立地支援担当の一員として、右の4つの補助金に係る相談対応・審査・支払等の業務を担当しています。それぞれ要件や補助率は多少異なりますが、いずれも震災により打撃を受けた福島県の製造業等の生産拡大及び雇用創出を図り、地域経済の復興のため創設されました。

今年度の私の業務のうち大きなウエイトを占めていたのは、「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」及び「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」に係るものです。いずれも国の補助金ですが、採択に当たっては福島県の意見が求められます。申請者から事業内容について説明を受け、立地先の市町村の意見も踏まえた上で、被災地への貢献度や事業の将来性といった観点から、県として採択を希望する事業を選定します。

在籍2年目ということもあり、今年度は企業誘致担当が呼び込んできた事業者の補助金申請の対応を任せられることになりました。各方面との調整で苦勞することもありましたが、担当の垣根を越え課内で連携して業務を遂行できたことは貴重な経験になりました。

また、業務を通じて市町村職員の方とお話する機会が多くありました。ある職員の方からは、帰還者数が頭打ちになっており、大規模な雇用や経済波及効果が見込める事業を誘致できるかどうか自治体の将来に大きく関わるといった切実な声を聞きました。その他にも、各市町村で復興のため奔走する職員の方々の姿を見て、身の引き締まる思いがしました。

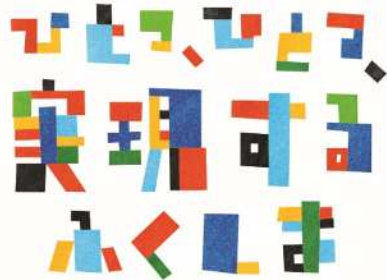


### ▲私が担当する4つの企業立地補助金

(ふくしま復興のあゆみ (第32版) から引用)

## 2 被災地の復旧・復興の状況

企業立地の観点からですが、国・県・市町村・その他関係団体の尽力により、原発事故で撤退を余儀なくされた企業の帰還や県外からの新規立地が進んでおり、被災地の復旧・復興は着実に進んでいると思います。検査などで様々な事業所に伺う機会があり、お会いした企業の方々からは、帰還できたことの喜び、復興に懸ける想い、操業までの苦悩といった様々なお話を聞かせていただきました。こうした企業の奮闘はまさに、震災から10年を機に制定された福島県のスローガンである「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」を体現するものであると感じました。



その一方で、福島県はALPS処理水放出という新たな懸案を抱えることになりました。放出に対しては様々な意見があることは承知していますが、何よりもまず、多くの人に福島の実状に関心を持っていただきたいです。

福島県では、近年「ホープツーリズム」に力を入れています。被災地の現状を見て、被災者や復興に携わる人々の話を聞き、震災・原発事故の教訓をどう活かすかを考えるプログラムです。新型コロナウイルスによる行動制限や入国制限が緩和されてからは、学生や外国人、企業研修の方々を乗せたツアーバスを被災地でよく見かけるようになりました。参加者は年々増えているようですが、世間の認知度はまだそれほど高くないように感じます。被災地の今を知ってもらうためにも、より多くの人に参加してほしいと思っています。

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

この原稿を執筆している時点で、福島での生活が1年半を過ぎました。冬場の雪や盆地特有の蒸し暑さに困惑することもありましたが、それ以上に素晴らしい福島風景・文化・人のおかげで公私ともに充実した日々を送ってきたと感じています。

派遣1年目で福島を十分堪能できたと思っていましたが、知らなかった名所、名物、秘湯などはまだまだありました。特に、今年は私が生まれ育った羽生市の友好都市である金山町を訪れることができ、只見川沿いの美しい景色と天然炭酸温泉を堪能できたことが印象に残っています。皆様も是非お越しいただき、実際に福島を見て・感じて・味わってください。もし福島に行くことが難しければ、東京にある「日本橋ふくしま館MIDETTE」でも名産品を手に入れたり、福島に関する様々な情報を得ることができますので、そちらにも是非お立ち寄りください。

最後に、私は埼玉以外に地縁・血縁がなく、県外での生活に不安があり、派遣を希望しようかしばらく迷っていました。しかし、多くの方々から暖かく迎えてくださり、福島への派遣を希望して本当によかったと思っています。仕事では埼玉に本社を置く企業との関わりも少なからずあり、

埼玉と福島の縁は思っていた以上に深いと実感しました。埼玉に戻ってからも福島の魅力を人に伝えたり、微力ながらも被災地への支援を続けることで、派遣によってできた縁を大切にしていきたいです。



▲ 2月・安達太良山（二本松市）



▲ 5月・大志集落（金山町）



▲ 8月・布引高原と猪苗代湖（郡山市）



▲ 10月・霊山（伊達市）



▲馬刺し（会津坂下町）



▲会津山塩ラーメン（北塩原村）



▲国見バーガー（国見町）



▲ジンギスカン（平田村）



▲飯舘牛の牛丼（飯舘村）



▲常磐ものの刺身（いわき市）